（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立熊野小学校
校長　　八木　直亮

中学校区におけるめざす子ども像
・地域を愛し、地域の良さを外へ発信できる子　　・校区で育ったことや経験を糧にして、進路選択ができる子　　・自らを律し、自ら学び続ける子

令和6年度　重点目標
急激に変化する時代の中で、学校教育には、一人ひとりの子どもたちが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。
そのために、教職員は、教育への情熱、確かな指導力、信頼される人間力を備え、「チーム力」を発揮し、家庭・地域・関係機関と連携・協働しながら、総合的な学力・豊かな心・健やかな体を育む学習活動を通して、教育目標の具現化に努める。

確かな学びの現状
【学びに向かう力】
授業研究、自主学習、けテぶれ学習などの取り組みにより、学習について粘り強く、積極的に学習することができている児童が多い。しかし、学習嫌いの児童や、自らで学習計画を立てることに苦手意識をもつ児童が多い。
【知識及び技能】
経年で見ると，全体として確かな学力は着実に身についてきているものの、漢字や計算する力、データを活用する力に課題は見られる。また、記述形式の問題となると、他問題以上に困る児童が多い。
【思考力・判断力・表現力等】
タブレットを積極的に用いたり、学習のふりかえりを大事にしたりすることで、考えを表現し、意見交流しながら、考えを深めることができる児童は多い。しかし、表現することが苦手な児童もおり、二極化がみられる。

豊かな心・健やかな体の現状
・コロナ禍の影響もあり、全体的に子どもたちの体力が低下傾向にあった。今年度は、新体力テストをもとに、課題を明確にして子どもたちの体力向上に向けて、授業改善をはかる。
・学びの診断では、「朝食」・「前日準備」・「家の人との会話」の項目は，比較的よい結果である。対して，「就寝時間」・「ゲームの時間」・「読書の時間」は，全般的に課題がみられる。特に，感染症の影響で、「ゲームの時間」が増加している。休み時間での外遊びや，大なわ大会の実施など、体を動かす機会を増やしていく必要がある。
・コロナ禍を経て行事で活躍できる機会が減っていたため、他者とコミュニケーションをとる機会が減少していたことから、自尊感情が低い傾向にある。仲間づくりや良いところみつけ、異学年交流などに取り組むことで自尊感情を高める必要がある。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認（～10月）		達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	環境整備	教室環境を工夫し、日々改善に努めることで、どの児童でも安心して、学ぶことができる。	●安心して学習できる教室環境、授業のUD化に取り組み、どの児童も安心できて、わかりやすく、学びやすい環境づくりにつとめる。	アンケート全般で肯定的な回答が80%以上	学校教育アンケート	2・3学期	○	授業改善や学年に応じた取り組みを行うことで、各クラスで、安心して落ち着いて学習できる環境作りを進めることができている。また、定期的にブロック研修も行い、学年の様子を共有することで、児童の学びに活かすことができている。	○	学校教育アンケートにおける「授業のわかりやすさ」の項目では、肯定的回答が88%。また、「落ち着いた学習環境」の項目では82%の肯定的回答であった。定期的なブロック研修や、日々の授業改善、教室の環境整理に取り組んだ成果だと考えられる。	○	・落ち着いた学習環境が整っていると思われる。
			●月1回程度、低・中・高に分かれてブロック研修を行い、教室環境や授業、学年の取り組みについて話し合い改善に努める。	全体会で報告、成果と課題について共有する。	実践報告	年度末研修全体会	○		○		○	
	授業改善	自ら学習を進めることができる子どもの育成に向けた授業改善を行うことで、児童が自立して学習することができる。	●全学年が研究テーマを意識した研究授業を行い、学校全体で成果と課題を共有し授業力を向上させる。また、全教員が年に1回公開授業を行い、授業力の向上をはかる。	各学年1回ずつ、年間6回の研究授業を行い、全体共有する。 全教員が年に1回公開授業を行う。	実践報告	3学期	○	各学年の研究授業も進み、研修テーマについての理解が深まり、よりよい授業つくりに繋げることができている。今後も公開授業などを重ね、自立して学習することができる力を養っていく。	○	年間6回の研究授業や公開授業を計画立てて行うことができた。また、学校教育アンケートにおける研修テーマについての意識調査を行う項目では、84%の肯定的回答であった。研究授業や校内教員研修などを通して、教員の理解が深まり、それにより、児童が自立して学習する力を、この一年間で養うことができたと考えられる。	○	・研修や研究授業により、教員の授業力・子どもの学力向上が計られている。
			●全学年で意識調査を行い、そのデータを蓄積することで、経年的な数値の向上に努める。	アンケート全般で肯定的な回答が80%以上	学校教育アンケート	3学期	○		○		○	
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	あらゆる教育活動の場で、豊かな人間性を育成する。（いじめの未然防止に向けた取り組みの充実）	内容項目・ねらいに沿った「特別の教科　道徳」の適切な指導を計画的・継続的に充実させる。	教科書や、「未来をひらく」を効果的・計画的に活用する	実践報告	教科研修委員会 研修全体会	○	道徳推進教師が各クラスでモデル授業を公開し、授業改善に取り組んでいる。 「ちがいを認め合う仲間づくり」をするために、年度はじめに設定した各学年の目標に合わせた計画をもとに活動をすすめている。 クラスで取り組む「いいところ見つけ」や異学年交流を積極的に行い、自己肯定感を高めている。	○	3学期の学校教育アンケートで、「自分にはよいところがある」の肯定的評価について2～6年生については80%を上回った。（1年生は「わからない」の回答が多く、80パーセントを下回った。） 人権教育を土台として行事などを行ったことにより（各学年の学年目標に合わせた集団づくりへの取り組み）、子どもどうしがつながりを感じながら学校生活を送ることができた。今後は自信をもって、自己有用感を感じられるように、道徳の授業や「いいところ見つけ」に継続して取り組む。	○	・子どもの自己肯定感、自尊感情を育てる取り組みは、すばらしいと思う。継続した取り組みを、今後もお願いしたい。 ・子どもの肯定的評価が80%以上あり、良い結果が出ていると思う。 ・一方、ここ最近の新社会人で、能力があるのに自信のない人が少なくないと聞いたことがある。この取り組みで、子どもの背中を押すように、自信を持たせてほしい。
			あらゆる教育活動の場において、子どもの自己肯定感や自尊感情を醸成し、自他の価値を尊重する意欲や態度を育成する。	「自分にはよいところがある」で肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	3学期	○		○		○	
			学級会・学級活動・なかよし班活動を充実させ、自他のよさを認めたり、異学年交流を深めたりすることができるようにする。	学級会、学級活動、なかよし班活動を通して、友だちのよさを認めることができている。	実践報告	人権研修委員会 研修全体会	○		○		○	
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	運動やスポーツの楽しさを実感できる取組や授業の展開を行う。	小学校体育指導の手引きを活用し、運動量を確保した授業づくりを行う。	実践報告	各月健康安全委員会	○	学期初めに1週間早寝早起きチェックを実施することで，家庭と連携を取りながら生活習慣改善に努めている。大縄大会・縄跳び集会を通して体力向上を目指し、学校全体で取り組んでいる。	○	児童アンケートの早寝早起きの項目では，前年度と比較すると肯定的な回答が減少していた。 一方、朝ご飯を食べている項目では，5・6年生の肯定的回答がやや減少し、反対に3・4年生の肯定的回答がやや増加した。体育指導では，体育指導の手引きを活用し，運動量を確保した授業づくりを行うことができた。3～6年生の体力テストの結果は，堺市平均を上回るものが多かった。	○	・堺市平均を上回る項目が多いのは、良い点である。 ・ゲームなどで室内にいることが多くなりがちなので、外で運動する機会が増えるのは良いと思う。
			早寝早起きチャックカードの活用、全校朝礼での啓発を通して、基本的生活習慣を身に着ける	アンケート結果に向上が見られる。	学校教育アンケート	3学期	○		○		○	・大人でも、早寝早起きは難しい。生活リズムを整えることは、健康な心身への第一歩である。
（地域協働）	信頼される学校	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域とともに歩むチーム学校づくりを進める	学校ホームページ、校報等を活用し、教育活動の現状と成果の発信に努める。	学校HPを更新し、校報を発行する。	学校教育アンケート等	3学期	○	HP更新は各学年の活動を中心に毎日。広報は月1～2回ペースで発行。自治防災を地域の方から学んだ。伝統ある音楽隊は堺まつりやイルミネーション点灯式で活躍し市のイベントに貢献している。 学習活動で、校区内の商店街・公園・施設等に行き、地域の良さを知ることができている。	○	保護者用学校教育アンケートで!学校は、保護者・地域の願いに応えるために意見を聞いている。82%、「学校に関する情報を校報やHP等でわかりやすく伝えている」の95%が肯定的な回答であった。4年生の授業で「地域防災」の授業を実施、地域から講師を招いて段ボールベット組み立てや防災備蓄倉庫の見学などを行う。熊野校区防災・スポーツふれあいフェスタや音楽隊による堺まつり出演など、地域と協力して行事に参加できた。	○	・地域とのつながりが、非常に強い小学校である。 ・地域、社会との関わりは、子どもにも良い影響があると思う。
			地域たんけん等の地域学習に取り組み、地域を愛し、地域を誇れる子どもを育成する。	「総合」「生活」等の学習で地域の良さを知る活動ができたか。	実践報告	年度末	○		○		○	

校長より（年度末）
・6年生の全国学調のポイントが国・算とも全国、府よりも高い正答率でした。また連合運動会綱引（小規模校の部）で1位、2位を獲得し児童の体力向上も見られました。
・ICTの授業での活用が8割近くあり休み時間にも検索などで普段使いしタブレットを毎日活用しています。このことは学校評価者や保護者からも評価していただいています。
・今後も学校目標の知・徳・体の調和を推進し、学校群の取り組みをはじめ国際理解教育や通級指導教室の充実を図ってまいります。

学校関係者評価者から（年度末）
・子どもたちは、落ち着いた環境で学習できている。
・教職員は、研修を通じ、授業力の向上を計ることができている。
・子どもの自己肯定感を高める取り組みを、継続して行うことができている。
・規則正しい生活習慣について、指導を行っている。
・地域とつながり、学校活動を行うことができている。